

養護教諭養成教育におけるケアリングの具現化 －養護実習記録簿のケアリング概念に焦点を当てた質的分析－

宮 崎 久 美 子

Caring in School Nurse Training:
A Qualitative Analysis of Nursing Practice Journals

Kumiko MIYAZAKI

現代心理学科, 心理学部,
安田女子大学

要 旨

看護の本質とされてきたケアリングの概念が、児童生徒の心身の健康課題の変容に伴い、学校教育現場でもその重要性が議論されている。本研究では、A大学医学部保健学科に在籍する34名の養護実習記録簿の記述を分析し、実際の教育現場でケアリングについてどのような学びを得ているかを明らかにした。ケアリング概念に関連する記述131件から、解釈可能な55件を抽出し、先行研究からのケアリングの枠組みと照合し、12のカテゴリーに分けた。【姿勢・アイデンティティ】【癒し】【場づくり】【傾聴】【関心】【感受性】【尊重・専心】【肯定・励まし】【関係性】【ケアの実践】【成長への後押し】【生きる力】のケアリングを学生は学んでいた。さらには、養護教諭の教育実践をケアリングのプロセスとして説明可能となる概念図を作成することが出来た。

この研究結果をもとに、養護教諭養成においてケアリング教育をどのように位置づけるかを今後の課題として取り組んでいきたい。

キーワード：養護実習、ケアリング、養成教育

問 題 の 所 在

近年、児童生徒の心身の健康問題は複雑化・多様化・深刻化している。養護教諭においても医療的ケアにおける看護の機能、心の問題に対するカウンセリングの機能、虐待児や発達障害児などの特別なニーズに対する機能、保健の授業担当による学習指導の機能、子育て支援・ヘルスプロモーションなどの地域保健との連携等、かつてとは比較にならないほど様々な役割が求められるようになった。学校現場では、スクールカウンセラー・看護師・栄養教諭など他職種の導入が進んでいる。このような状況下で、養護教諭は何をなさねばならないか、今まさにその専門性を明確にしなくてはならない。

さらに養護教諭は健康問題の支援にとどまらず、人間形成という教育目的を併せ持つ。中安¹⁾

は、養護活動は医療の範疇に入らない教育の一環としての活動であり、人格形成を目指して、本人及び関係者に対して行われる日々の相談的対応であるとしている。養護教諭の対応を、日々の相談的対応と狭くとらえているのではと思ったが、中安の別の論文²⁾では、養護活動は生活者としての子どもの人間存在にからだを通して関わっていく教育活動であるとも言っている。この日々の対応には、ケアすること、ケアしケアされる関係性が存在することが包含されていると思われる。特にヒューマンケアを必要とする養護教諭の活動においてはケアリングの存在があると考ええる。

教育現場では、学校嫌いや不登校など自分のいる場所が見いだせない児童生徒の増加や、学級崩壊のように集団生活をする態度が身についていない子どもたちの現象が見られる。このような現象を見ていて思うのは、人間関係の希薄化である。人間関係の中で育つべき心が育っていないように思われる。不登校のきっかけで最も多いのは、本人にかかわる問題、すなわち極度の不安や緊張、無気力であると言われている。これは情緒に関することであり、心的エネルギーの不足とも捉えることが出来る。ケアする中で癒され、補われるものである。

橋迫・池水³⁾は、学校教育の現状を省みて教育の在り方を転換するためには、配慮や思いやりを満たした他者とののかかわりに深い人間的な価値を見出すケアリング倫理という観点が、重要な意味を持つと言っている。また、Mayeroff⁴⁾の言うところの、一人の人格をケアすることは最も深い意味でその人が成長すること、自己実現することを助けることであるというのは、まさに教育の目標そのものであり、養護活動の目標でもある。

児童生徒の健康問題も、森⁵⁾の言葉を借りると、健康問題という現象がなくなればよいという発想が基本なのではなく、健康に生きる力、その根っここのところを太らせ、豊かに育てていくことによってそういう現象が生じないような状況を作り出していくことこそが養護活動であろう。学校教育現場でケアリングの概念が重要と考えるのは、児童生徒がケアしケアされる者として成長していくことであり、ケアしケアされるということは理性的に理解されることではなく、教師がその行為において示すことしかないということである。

養護教諭が直接、子どもたちにもたらしているものは何か。救急処置や健康相談を通して個への関わりを職務とする養護教諭の活動の中にケアリングの概念は欠かせないものであり、特に昨今の自然災害や事件・事故に遭遇する子どもたちの心の危機を思うとき、養護実践におけるケアリング概念の具現化と養成教育の取り組みへの必要性を痛感している。学校保健領域において、ケアやケアリングの概念が注目され養護教諭を対象にした研究が見られるが、養成教育への取り組みについての数は少ない。

研究の目的

本研究は、学生の実習記録簿に記載されたケアリングに焦点をあて、養護教諭あるいは実習生自身が、どのように子どもたちに癒しを与える言動、さらに子どもたちとの信頼関係を築いていくとする行動をとったか、また何を学んだかを明らかにし、養護教諭養成におけるケアリング教育の取り組みのための示唆を得ることを目的とする。

研究の方法

1. 研究対象

A大学医学部保健学科看護学専攻に在籍し、養護教諭一種免許取得のための養護実習に参加した4年生の実習日誌（平成24年度13名、平成25年度21名）を対象とする。

3週間の養護実習期間中に毎日記載された実習日誌の、「気づきと学び」「まとめと考察」の欄に記載された内容をデータとする。

2. データの収集及び管理方法

対象とした学生には、養護実習終了後に本研究の主旨を説明し、評価終了後、学生に実習日誌を返却し、研究参加と成績評価とは関係がないことを明示し、研究参加は自由意志であることを説明する。実習日誌の再提出を持って参加の同意を得たものとする。データの収集中は、研究者研究室の鍵のかかる収納庫に保管し、分析終了後は速やかに返却をする。

3. 分析方法

先行研究から分析したケアリングの因子をもとに、ケアリングに該当すると判断される文節を収集し、内容を分析する。枠組みは、筆者の先行研究⁶⁾を参考にする。

4. 倫理的配慮

研究参加への協力依頼は、対象学生に説明文書を用いて研究内容に関する説明、人権擁護に対する配慮の説明、研究参加は自由であることの説明をし、同意を得る。得られたデータは本研究以外に使用しないこと、個人名や実習校名は匿名化すること等を説明し、実習記録簿の提出を持って同意を得たこととする。本研究は、A大学臨床研究倫理審査委員会の審査を経て承認を得ている（承認番号2241）。

結 果

養護実習における学生のケアリングに関する学びの詳細を明らかにするため、計34名の実習記録簿を対象とし、131件のケアリングに該当する記述を抽出した。そのうち同じ内容であると解釈したものは集約し、55件に記述をコード化し、【姿勢・アイデンティティ】【癒し】【場づくり】【傾聴】【関心】【感受性】【尊重・専心】【肯定・励まし】【関係性】【ケアの実践】【成長への後押し】【生きる力】の12のカテゴリーに分類した。

【姿勢・アイデンティティ】

- ・養護教諭であることをしっかりと認識し、健康という視点から児童をいつも見ることを忘れてはならない
- ・学校に一人しかいない、児童の命を守る、健康を守る専門職としての自覚と責任を十分に持つことが必要である

他5件

【癒し】

- ・保健室の環境や雰囲気は、心身の疲れを癒し、エネルギーを補充する場として重要である
- ・熱を測ったり、手当をしてもらったりしている間に、自分の話を聞いてもらえることが気持ちの安定につながっている

【場づくり】

- ・児童が少しでも話をすることで楽になり、保健室で自分の居場所を見つけられることが出来たらいいと思う
- ・保健室経営の中で、子どもたちがリラックス出来たり、ストレス発散ができるような環境作りが重要である 他2件

【傾聴】

- ・児童と話をするときは、特に何かをしようという気持ちを持たずにただ聞くという姿勢が大切だと思った
- ・情報を得ることが先に立ち、児童の思いや気持ちをよく聴くための十分な間が取れていないことに気づいた

【関心】

- ・保健室以外で声をかけ、その反応で子どもたちを観察することが大切である
- ・児童からのSOSがなくても自分から寄り添って、子どもたちの隠れたSOSに気づきたい 他8件

【感受性】

- ・児童の中には、本当はもっと関わりたいけれど、その一歩を踏み出せないこともあるということを知った
- ・教室の活気が、その子にとっては精神的にも辛くなるだろうと感じ、保健室に来る意味を肌で感じた 他1件

【尊重・専心】

- ・児童と向き合う時は話をしっかりと聞き、児童自身が理解されていると感じることが大切である
- ・不必要に男女が区別されることのない環境を学校内で創っていくことが、これからの社会に繋がっていく 他6件

【肯定・励まし】

- ・出来たときに思いっきり誉めてあげることが、とても大切だと気付いた
- ・子どもに自信を持たせ、自尊感情を高めていけるような関わり方が大切である 他1件

【関係性】

- ・最近は児童に対して、点ではなく線で関わっているような気がする
- ・助けてのサインを出しやすい環境づくり、関係性を作ることが重要である 他2件

【ケアの実践】

- ・怪我だけを見るのではなく会話の中で、「最近どう？」など全体の様子をしっかりとらえることが重要である
- ・痛みを受け入れ、ねぎらいの言葉をかけることによって心のケアにもなり、気持ちも楽になる 他4件

【成長への後押し】

- ・「今回だけは、いいよ」という言葉が児童を成長させるために必要であると感じた
- ・児童がどうすれば成長していけるか、常に教育の視点で接することが大切である 他1件

【生きる力】

- ・怪我をした子に対して、今度そうならないためにどうするかを児童自身で危機回避できるような指導をしていくことが必要である

- ・嫌なことに対して逃避をしやすいが、いつかは向き合わなければならない問題として気づかせる関わりも必要である

他1件

考 察

この分析結果を踏まえ、養護実習において学生が捉えたケアリングの、特に養護教諭として重要であると着目した4つのケアリングの因子と、学生が学んだケアリングの諸相について以下に考察する。

1. 姿勢・アイデンティティ

波多⁷⁾は、養護教諭の職業的アイデンティティを、自分は養護教諭であるという自覚を持って、養護教諭という仕事に価値や誇り、やりがいを感じ、そこに自分らしさを見だし、職業とともに人間として発達していくものと定義している。学生の記述では、「養護教諭は、児童を見守るということを忘れてはいけない」「子どもが信頼できる態度や能力を持つこと」「その子を認める存在」「養護教諭として貢献したい」という養護教諭観が見られる。Mayeroff⁸⁾が述べる、他者の成長こそケアする者の関心の中心となるという養護教諭としてのアイデンティティが、児童生徒への支援の根源となっていると考えられる。

2. 場づくり

記述には、児童生徒にとって居場所として、またリラックスできる場所としての保健室の意義が多く挙げられていた。ムスターカス⁹⁾は、心理療法においてはお互いに心を開きあえ、自由に、落ち着き、尊重されていると感じる雰囲気づくりが重要であると言う。また、砂村ら¹⁰⁾は、保健室は学校の枠組みの中にあり、保健室登校の子どもたちが学校文化から完全に離脱することなく、本人が成長するのを待つ時間と場所を提供しているところに、保健室や保健室登校の教育的意味があるとしている。

保健室を単に物理的な環境として捉えるのではなく、心理的・社会的環境として捉えたならば、共感してくれる場であり、受容してくれる場であり、思いやりという応答をしてくれる場であろう。Roach¹¹⁾は、思いやりとは他者の経験に関与し応えることであり、他者の痛みや障害を感じることであり、他者の経験を共有し、他者のために自分自身を費やすことができる存在の質であると述べている。児童生徒にとって、共感し、受けとめてもらえ、思いやりと配慮に満ちた環境は、安心と自信をもたらすことにつながるのである。

3. 尊重・専心

学生の記述には、個を尊重することや親身な対応をすることの重要性が多くみられた。さらには、「養護教諭は知っている生徒を中心に考えがちであるが、それはそれで弱い立場の生徒を守るために必要なことである」や「最後まで味方である存在でなくてはならない」という記述があった。ややもすると公平性に欠けると捉えられるが、学生のとらえた現象は、養護教諭の自問自答しながらも自身の信念に動かされている言動だったに違いない。

Mayeroff¹²⁾は、専心（コミットメント）をケアリング因子として挙げ、専心は課題や人や選択、あるいは職業に向けて自分自身を投じさせるような質であり、価値として内面化されている

がゆえに、義務としてしなければならないことを負担として感じさせなくしてしまう質であると述べている。大谷¹³⁾は、養護の基本原理は身体的世話や生活援助という直接的な作用だけではない。あなたは大事な存在というメッセージを伴っていることによる“生命・人間尊重の原理（あなたは大事な存在）”がすべての基本にあるということであると述べている。養護教諭の児童生徒の存在を認める、さらに大切な存在としてケアを継続していく働きかけは、児童生徒の自尊感情の向上につながり、その行動の変容や心身の成長へ導くことになると言えよう。

4. 生きる力

学生は、外傷のケアについて、「怪我をした子どもに対して、今度そうならないためにはどうするかを児童自身で危機回避できるような指導をしていくことが重要である」とし、心のケアについて、「嫌なことに対して逃避しやすいが、いつかは向き合わなければならない問題として気づかせる関わりも重要である」と記述している。中央教育審議会答申（第一次、1996）の中で生きる力を、単に過去の知識を記憶しているということではなく、初めて遭遇するような場面でも自分で課題を見つけ、自ら考え、自ら問題を解決していく資質や能力であるとし、生きる力を形作る柱として柔らかな感性や尊重する心、思いやり、共感などをあげている。

学生が学び取った将来を見据えた支援は、日常の児童生徒とのケアしケアされる関係性の中で遂行される。早川¹⁴⁾は、ケアする者の理想とする動機がケアされるものに伝えられる時、ケアされる者はケアされることの喜びを受容する能力によって、ケアされる喜びを感じ取り感謝の気持ちを表現する。この感謝の気持ちが、自らの課題に立ち向かい、それに積極的に取り組むことを可能にすると言う。

ケアしケアされる関係性の中で、児童生徒に向けられた養護教諭の働きかけは、感情を認識することにより自己受容につながり、成長を助け、自己実現へと支援する。

5. 学生の学びから見た養護活動とケアリングの諸相

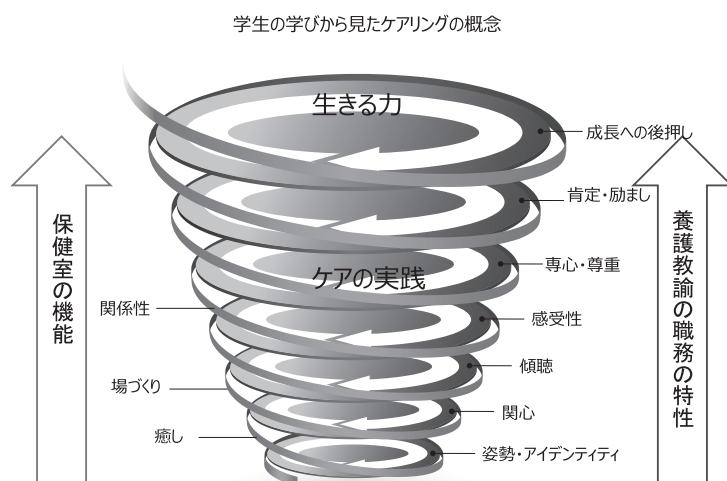


図1 学生の学びから見たケアリングの概念

養護教諭の専門性は、養護教諭の職務の特性と保健室という場の機能を生かして、児童生徒の心身の健康課題を解決すべく支援し、【生きる力】の育成を図ることである。その【生きる力】を育成するための養護実践が、ケアリングの概念を包含しながら展開されていく過程を、養護実習の学びの記述から説明することが出来る（図1）。

岡田¹⁵⁾は、養護教諭の養護の機能をケアの視点から捉えて、養護の機能には「人間形成の教育機能」「健康支援活動」「健康教育活動」の3つの機能があるとし、その絡み合いの中で発揮されるが、そこには「大切に思う、愛する、共感する」といった感情の動きを表すケアの意味を伴うと言っている。

子どもたちは、彼らを取り囲む環境の影響を未熟であるが故、無防備であるが故、大きく受けることとなる。そして、自然災害や世界的な感染症の危機も襲い、人間関係の希薄化もより進むかもしれない。養護教諭は、独自の機能を持ち、固有の場に存在することのできる唯一の教育職員である。児童生徒をケアし、その成長に寄与すると同時に、教育現場を情緒豊かな、健やかな場にプロモートすることが出来る教育職員である。よって、ケアリングに満ちた養護活動を展開してもらいたいと願う。

本研究では、対象の学生がレジネスとして看護学を履修しており、長期間の臨床実習も終えている。大谷¹⁶⁾は、看護学系で人間の尊厳、命の尊さ、ケアの本質を学んだ学生は、その後教育学系にて教育的働きかけを学んでも水が吸い込まれるように、沁みとおるように吸収するという。このことは、教育学部や心理学部での養護教諭養成においてケアリングの概念を学ぶことの必要性と、教育的働きかけにおけるケアリングの重要性の二つを提起していると考ええる。養護教諭養成にかかわるものとして、既定の専門科目の中に、又は新規科目としてケアリング教育を導入することが喫緊の課題であると考えている。

結 論

本研究は、養護教諭一種免許状を取得するために養護実習に参加した学生が、実際の教育現場でケアリングの概念をどのように学び取っているかを実習記録簿の記述から明らかにしたものである。本研究において、

1. 学生は養護実習において、【姿勢・アイデンティティ】【癒し】【場づくり】【傾聴】【関心】【感受性】【尊重・専心】【肯定・励まし】【関係性】【ケアの実践】【成長への後押し】【生きる力】の12のケアリングについての学びをしていた。
2. 学生の学びを通して、【生きる力】を育成するために展開される養護教諭の活動の中に内在するケアリングの諸相を、概念図として明らかにすることが出来た。
3. 養護教諭養成教育におけるケアリング教育の導入への示唆を得た。
の結果を得ることが出来た。

謝 辞

本研究にあたり養護実習記録簿を資料として提供して下さった、A大学の学生の皆さんに感謝いたします。また、学生に多くの感動と学びの機会を与えてくださいました当該実習校の教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

引 用 文 献

1. 中安紀美子：養護教諭の発達保障と発達支援－発達論体系化のための視点－，日本養護教諭教育学会誌，Vol. 6，No. 1，2003
2. 中安紀美子：養護教諭の「養護」とは何か，日本教育保健研究会年報10，47-54，2003
3. 橋迫和幸・池水佐千子：教育におけるケアリングの意義と課題－ネル・ノディングズのケア理論を中心に－，宮崎大学教育文化学部紀要 教育科学10，73-89，2003
4. Milton Mayeroff / 田村真・向野宜之訳：ケアの本質－生きることの意味，ゆみる出版，2005
5. 森昭三：これからの養護教諭－教育的視座からの提言－，大修館書店，1991
6. 宮崎久美子・橋本和子：養護教諭のケアリング行動に関する研究－概念的枠組みの構築－，Career & Nursing Research，Vol.2，No.1，63-71
7. 波多幸江：養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の開発－関連要因の解明による養護教諭の職業的発達に向けて－，新潟大学大学院現代社会文化研究科学位論文，2018
8. 前掲書4
9. C.ムスターカス / 国分康孝・国分久子訳：人間存在の心理療法，誠信書房，94-97，1992
10. 砂村京子他：保健室登校開始前後における養護教諭の対応，学校保健研究，40-49，2005
11. M.Simone Roach / 鈴木智之・操華子・森岡崇訳：アクト・オブ・ケアリング－ケアする存在としての人間－，ゆみる出版，2002
12. 前掲書4
13. 大谷尚子：養護学概論，東山書房，16-29，1999
14. 早川操：「ケアリングマインド」育成のための教育理論とその課題－N.ノディングズによるケアの連鎖構造と同心円構造の考察を中心に－，名古屋大学教育学部紀要，45（2），1998
15. 岡田加奈子：「養護教諭の養護」の概念－ケアの視点から－，日本保健医療行動科学会年報，Vol.17，2002
16. 大谷尚子：養護教諭養成における看護学部と教育学部の開講科目の比較（内部資料），1999

[2020. 9. 17 受理]

コントリビューター：坪井 敬子 教授（看護学科）